

大学での情報教育の現状と課題

オーガナイザ： 西野和典（九州工業大学）、人材育成委員会情報教育部会

高等学校では2013年度より、新教育課程での情報科の授業が開始されている。2003年度から開始した普通教科情報科の3科目（「情報A」「情報B」「情報C」）が、共通教科情報科の2科目（「社会と情報」「情報の科学」）に改訂され、学習指導要領に定められた学習内容もかなり更新されている。2016年度（平成28年度）には、これらの科目を学習した学生が大学に入学する。

一方、大学のキャリアデザイン教育では、大学入学後、学生は将来を見通して職業意識を持ち、仕事や職務の形成を行っていく。目標とする業種や職種がある程度決まれば、就職後、職務を遂行する際に求められる情報活用能力について、学生は在学中に把握することが望ましい。そこで、中央職業能力開発協会（JAVADA）では、職業能力としての情報活用能力をどのように定め、どのように評価しているかを知り、社会人が遂行している情報活用能力への基礎教育としての一般情報教育のあるべき姿を検討したい。

このように、本プレカンファレンスでは、大学の「入口」で課題となる高校の情報科教育と一般情報教育との接続、及び社会人が職務遂行上求められる情報活用能力の観点から大学の一般情報教育の目標や内容を検討する目的で、次のようなパネルディスカッションを行う。

なお、大学における一般情報教育の状況については、情報処理学会が実施した調査結果をご紹介します。

プログラム

- | | |
|-------|--|
| 10:00 | 趣旨説明
西野和典（九州工業大学） |
| 10:10 | 「大学における一般情報教育について—情報処理学会での調査から」（*）
岡部成玄（北海道大学） |
| 10:30 | 「高等学校新教育課程での情報科教育の現状」
佐藤万寿美（兵庫県立川西緑台高等学校） |
| 10:50 | 「JAVADAの職業能力評価基準の実態把握と査定による情報活用能力」
西之園晴夫（特定非営利活動法人 学習開発研究所） |
| 11:10 | 全体討論 |
| 11:50 | 終了 |

協力：情報処理学会一般情報教育委員会

（*）報告される研究の一部は、JSPS 科研費 25350210 の助成を受けたものです。